



自分たちで植えたお米はどんな味？

新得小学校おにぎり試食会

新得小学校の「おにぎり試食会」が11月27日、共働学舎新得農場で行われ、児童30人が参加しました。

同校の5年生が社会科の授業で稲作について学んでおり、今年6月に田植え、10月に稲刈りを同農場の協力で体験し、今回はそのお米の試食会。

精米したお米「ゆきひかり」を羽釜で炊き、熱々のご飯を塩のみで各自おにぎりにしました。

児童は手を米まみれにしながら、思い思いにおにぎりを作っていました。

どんなお仕事をしているのかな？

新得保育所職場訪問

新得保育所の園児が2グループに分かれ、職場訪問として11月27日にわたなべ歯科と北広牧場を訪れました。

わたなべ歯科には5人が訪れ、副院長の渡部とわこさんから院内の設備の説明を受け、自分たちで考えてきた「どうやって虫歯を直すんですか」などの5つの質問にも答えてもらいました。

北広牧場には、13人が訪れ、従業員の若原哲也さんに案内してもらい、牛にえさをあげ、牛のおでこをなでたりし、「どうやって赤ちゃんは生まれるんですか」などの8つの質問に答えてもらいました。



質問に答える渡部副院長



おなか美味しーって頬張る園児

見事に太さがそろったそばができあがると園児から歓声上がり、「こねこねが上手だった」、「切るのが上手だった」との感想も出ていました。

「どうして途中で粉をつけるの」との質問もあり、「そばがくっついて太くなるのを防ぐためだよ」と柴田さんは丁寧に答えていました。

打ち終わった新得そば粉100%のそばに新得地鶏を使ったつゆ、地鶏の肉もトッピング。保護者の『もりもりランチ委員』が調理をし、園児にできたてのそばが配られました。

普段なかなか味わくことができないそばに園児も「おいしい」と笑顔を見せながら口いっぱいそばを頬張っていました。

そばってどうやって作られるの？

新得幼稚園そば会

普段食べているそばがどのように作られているかを学ぼうと11月25日、新得幼稚園でそば会が行われ、園児56人がそば打ちの様子を見学しました。

昨年に引き続き、新得手打ちそば愛好会の会長を務め、そばうちを初めて45年になる大ベテランの柴田信昭さんをお呼びして、手打ちそばの実演が行われました。

手打ちそばの実演に園児は、いすから立ち上がって見るなど興味津々の様子。素早い手つきで作られていくそばに園児は目が惹きつけられっぱなしでした。



手打ちそばの実演を行う柴田さん

話題のアルバム

受講生の力作が勢揃い

第22回陶芸センターまつり

第22回陶芸センターまつりが11月14日、15日の両日、町陶芸センターで開催され、町内外から約300人の陶芸ファンが訪れました。

即売会では、食器や来年の干支「申」の置物、受講生の作品などがずらりと並び、初日には売店への入店を待つ人の列ができるなど大盛況。体験教室では、子どもから大人までが絵付け体験に挑戦しました。

陶芸教室の受講生約40人の作品も展示されており、同まつりの運営スタッフの受講生との会話と個性あふれる作品が訪れた人を楽しませていました。



お年寄りとお交流する新得小の児童



座学では「認知症」や「新得町での高齢者に対する取組」等についての講義を行い、その後実際にグループホームを訪れ、お年寄りとお交流を行いました。児童は絵本の読み聞かせやトランプなどを行いながら、積極的にお年寄りに話しかけており、お年寄りも交流を楽しんでいました。

交流を行った後の座学では、これまで学んだことをもとにキッズサポーターとして自分は何ができるかを考えました。

全ての授業の終了後、児童44名には認知症キッズサポーターの証しである「オレンジリング」が手渡されました。これで新得町のサポーターは976人になりました。

児童44名が新しく認定

認知症サポーターキッズ養成講座

子どもの頃から認知症という病気や認知症になった人について正しく理解し、優しい気持ちで接する大切さを理解してもらおうと「認知症キッズサポーター養成講座」（新得町ケアマネジャー連絡会主催）が新得小学校、屈足南小学校の6年生の児童を対象に開かれました。

この取組は、平成23年度から始まり、今年度で5回目となります。

11月2日から新得小学校で授業が開始され、6日からは屈足南小学校でも授業が開始。6時限（座学4時限、視察訪問2時限）を行い、認知症に関する知識を増やしました。



認知症について学べる屈足南小の児童

「センチチョコキョウイクマツリ」大成功の文字を「ドミノ」で並べる子ども達



子どもも大人も笑顔がいっぱい

第4回全町教育まつり

第4回全町教育まつり（全町教育推進本部主催）が11月15日、町公民館で開催され、およそ1000人の来場者で盛り上がりを見せていました。

町民ボランティアの指導による布を使った小物作りの「おばあちゃんのちえ袋」や約2000個のドミノを使った「ドミノに挑戦」などが行われました。昼食には学校給食の人気メニューのビビンバ井などが再現され、買い求める人で長蛇の列ができていました。

全町教育のキャッチフレーズである「子どもを育てる地域の和 地域を育てる子どもの笑顔」の言葉どおり、いろいろな体験活動をする子どもたちも、それを教える大人たちも笑顔の溢れる1日となりました。